

令和2年度第2回 感染症発生動向調査部会

令和2年10月21日

月番：澤田 明（感染症全般）、石山 俊次（STI）

1 前月の感染症発生動向について（2020年第36週～第39週・9月）

<全数把握対象疾患>

（感染症全般）

- ・ 結核は17例あり、毎週コンスタントに報告された（やや前年より少ない；対前年比：83.0%）
- ・ 腸管出血性大腸菌感染症は1例のみ報告された（前年よりかなり少ない；対前年比：18.9%）
- ・ レジオネラ症は、比較的毎週コンスタントに報告された（対前年比：61.7%）
- ・ 五類感染症
 - ✓ 毎週コンスタントに報告された疾患は、新型コロナウイルス感染症以外なかった。
 - ✓ 侵襲性肺炎球菌感染症は2例報告された（対前年比：52.2%）
 - ✓ 百日咳の報告例はなかった（対前年比：44.6%）
 - ✓ 梅毒は1例の報告があった（前年比：73.3%）。
 - ✓ 風しんの報告例はなかった（対前年比：33.3%）
 - ✓ 新型コロナウイルス感染症は、62例報告された。

（STI）

- ・ 後天性免疫不全症候群は、無症候性キャリア、AIDSともに発生がなかったが、同期累計で昨年に比べて減少傾向はみられていない。
- ・ 梅毒は30歳台男性早期頭症が1例あったのみで、同期累計で前年度60例に対して本年は44例と減少傾向がみとめられている。

<定点把握対象疾患>

（感染症全般）

- ・ 前月と比較し増加傾向にある疾患は、咽頭結膜熱（前月比：167.4%）、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（前月比：152.8%）、水痘（前月比：170.6%）、ヘルパンギーナ（前月比：497.6%）、流行性耳下腺炎（前月比：116.1%）だが、全体に総数は少ない
- ・ インフルエンザは、1例のみ報告された
- ・ 感染性胃腸炎は毎週コンスタントに報告されているが、同じく総数は少ない（前月比：96.2%、前年比：48.3%）

（STI）

- ・ 男性の淋菌感染症に減少傾向がみとめられたが、過去2年間は10月に明らかな発生増加がみられていたので今後の発生動向に注意が必要である。
- ・ 性器クラミジア、性器ヘルペス、尖圭コンジローマの発生数に大きな変化はみられなかった。男性の性器ヘルペスおよび尖圭コンジローマと女性の性器クラミジアでは、昨年10月に明らかな発生増加がみとめられたので今後の発生動向に注意が必要である。

2 検討すべき課題

- ・ 新型コロナウイルス感染症重症化症例の分析（澤田委員）

3 情報提供すべき事項

（澤田委員）

- ・ 新型コロナウイルス感染症の発症動向およびワクチン開発情報
- ・ インフルエンザウイルス感染症に対するワクチン接種の情報

4 情報提供（月番委員専門分野から）

（石山委員）

- ・ 厚生労働省エイズ動向委員会のまとめによると、HIV 検査の実施数が今年 4～6 月は前年同期の 4 分の 1 にとどまっていることがわかった。（ 35,908 件 → 9,584 件 ）
- ・ 新型コロナウイルス感染症の対応で各地の保健所が検査を休止したこと、外出自粛により検査を受ける人が減ったことなどが影響しているとみられる。
- ・ 一方、全国で新たに報告された HIV 感染者数は、検査数の減少ほど大きくは減らなかったが、厚労省の担当者は「各自治体で感染リスクの高い方が頻繁に来る検査場を維持するなど対応してもらった結果」と話している。（朝日新聞：9 月 28 日夕刊より）

（感染症対策推進課から）

- ・ 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12 条第 1 項及び第14条第 2 項に基づく届出の基準等について（一部改正）
（鼻腔検体の追加・届出基準の変更）

<検討結果>